

# I C T を活用した主体的・対話的で深い学びの実践と 学習評価に関する研究

—高等学校地理歴史科の実践を中心に—

学校経営支援課 喜枝 秀行

## 要 旨

I C T を活用した主体的・対話的で深い学びについての授業実践や、学習評価を見据えた教材について、特徴のある事例を紹介するとともに、普段の授業の実態調査を行うことで、I C T を活用した授業は主体的・対話的で深い学びの実践や、学習評価の収集などに有効であることが分かった。

キーワード：I C T、主体的・対話的で深い学び、学習評価

## I はじめに

平成30年3月に告示され、令和4年度から年次進行で実施されている高等学校学習指導要領には、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点における学習の過程や成果を評価することが示されている。さらに本県では「徳島県G I G A スクール構想」のもと、令和3年度から県立及び市町村立全ての学校で1人1台端末の活用が開始され、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っている。これを受け、高等学校地理歴史科における研修では、生徒の「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」の育成に重点を置き、I C T を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や学習評価を見据えた教材づくりについて指導・助言している。

本研究では、研修受講者が研究授業や模擬授業で実践したI C T の活用事例や、学習評価を見据えて作成した教材の中で、特徴のある事例を中心に紹介する。さらに、普段の授業や学習評価についてのアンケート調査を実施し、結果の分析をもとに学校現場の現状と課題を明らかにした上で、今後の取組について検討した。

## II 研究仮説

研究授業などで実践されたI C T の活用事例や、学習評価を見据えた教材などを蓄積・共有し、アンケート結果の分析を通じて現状と課題を明らかにすることは、これからの学校現場における授業改善や教材づくり、学習評価の充実の一助となるであろう。

## III 研究の実際

### 1 研修の重点項目

地理歴史科における研修の指導・助言で、重視した点について次に述べる。

### (1) ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』における地理歴史科の改訂の基本的な考え方として、基礎的・基本的な「知識及び技能」については、単に理解しているか、できるかだけでなく、それらを生きて働かせてどう使うか、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかといった「確実な習得」が求められている。また、単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連性を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることも求められている。これらを踏まえ、研修受講者には、研究授業はもちろん、普段の授業においても、次の3点を重視するよう指導・助言した。

- ① 教員の説明や板書を中心にした知識伝達型の授業ではなく、これまでに学んだ知識を生かして考察したり発言したりする学習場面を数多く設定すること。
- ② 単元や授業で設定した「問い」を生かして生徒の考察や発言を引き出すこと。
- ③ 主体的・対話的な学びや考察を深める上で、効果的なICTの活用を実践すること。

### (2) 学習評価を見据えた教材づくり

今回改訂された高等学校学習指導要領総則では、学習評価の充実について、新たに項目が置かれている。学習評価の充実にあたっては、指導と評価の一体化を図り、学習の成果だけでなく過程を重視し、指導の改善や生徒の学習意欲の向上を図ること、さらに学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう組織的かつ計画的な取組を推進することが求められている。研修では、各校における学習評価の手法や現状について情報共有した上で、受講者が作成した学習指導案やワークシートなどの教材を基に、研究授業に向けて検討した。その中で、評価資料の効率的な回収の仕方や、回収した内容からどのように教材を改善していくかなどについて話し合い、学習評価を通じて、授業者自身も生徒と共に改善を重ねることが大切であることを助言した。

## 2 研修受講者による実践事例

以下は、令和4・5年度の基本研修受講者による授業実践のなかで、ICTを活用した学習場面や、生徒の思考力等の育成をめざして作成された教材、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価など、特徴のある事例の一部である。学習指導案におけるICTの活用場面を抽出し、スライドやワークシートなどの教材、生徒の回答など、各受講者の取組を紹介する。

### (1) 実践事例1 令和4年度フレッシュ研修Ⅰ 授業スキルアップ研修Ⅱ

- ① 科目名：日本史B
- ② 単元名：「幕藩体制の動揺」
- ③ 単元の基軸となる問い  
どのような背景から、それぞれの幕政改革は行われたのだろうか。
- ④ 本時の指導目標（第8時/全8時間中）  
三大改革の復習から、どのような背景でそれぞれの改革が行われたのか、また改革を通してどのように幕府権力が変化していったのかを考察する。（思考・判断・表現）
- ⑤ 本時の問い  
三大改革を通して、幕府権力はどのように変化していったか。

⑥ 本時の指導計画(学習指導案 本時の展開の一部を抜粋、ICTの活用場面を太枠で表示)

学習活動	指導上の留意点	評価規準	ICT・教材
<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft Formsを活用し、江戸幕府の三大改革の復習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>復習問題に取り組むことで、改革の担当者や内容などを確認する。</li> </ul>		電子黒板
<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末を用い、ペアワークで三大改革のキーワードを考え、共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三大改革のキーワードを思い出せるよう、時代背景や特色などの助言を行う。</li> </ul>		1人1台端末 Microsoft Forms Microsoft PowerPoint ワークシート
<ul style="list-style-type: none"> <li>三大改革を通して、幕府権力がどのように変化していったのかを考察し、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークで本時の問いについての考察を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三大改革の特色と幕政への影響について考察を深めたワークシートへの記入ができています。 【思考・判断・表現】</li> </ul>	

単元名は「幕藩体制の動揺」で、全8時間のうち第8時を単元のまとめとしている。単元を通して、三大改革がどのような背景で行われ、幕府権力がどう変化したのかという、時代を俯瞰した思考力を育成することが目標である。授業では導入部分でMicrosoft Formsを用い、それぞれの改革に関連する人名や政策、法令などのキーワードを

回収し、自動生成されたテキストマイニングを電子黒板に提示して、それぞれの改革に関する知識の整理と理解を深めさせた。生徒用ワークシート(図1)にはQRコードが付されており、Microsoft Formsにアクセスしやすいよう配慮されているほか、電子黒板に提示されたキーワードを用いてそれぞれの改革の特徴を文章化しやすいよう、改革の背景・具体例・特徴について、思考の過程を導く工夫が見られる。生徒たちは近くの席の者でペアを組み、協力し合いながらそれぞれの政策の特色を文章にまとめ、三大改革を俯瞰した幕府権力の変化について、考察を深めていた。



図1 生徒用ワークシート

(2) 実践事例2 令和4年度フレッシュ研修Ⅱ 班別研修

① 科目名：地理総合

② 単元名：「世界の地形と生活文化」

③ 単元の基軸となる問い

様々な地形の広がる世界で人々はどうのように自然と関わって暮らしているのだろうか。

④ 本時の指導目標（第8時/全8時間中）

世界の山地で今も残る人々の暮らしの特徴をMetaMoJi Classroomを用いてまとめ、人間と自然との相互依存関係について考察する。また、「にし阿波の傾斜地農耕システム」の特徴を理解し、その意義や価値について考察し、表現する。（思考・判断・表現）

⑤ 本時の問い

徳島西部の山地に暮らす人々は、どのように自然と関わって生活しているのだろうか。

⑥ 本時の指導計画（学習指導案 本時の展開の一部を抜粋、ICTの活用場面を太枠で表示）

学習活動	指導上の留意点	評価規準	ICT・教材
<ul style="list-style-type: none"> <li>地理院地図を用いて「にし阿波」や集落の位置を確認する。</li> <li>MetaMoJi Classroomの諸資料から傾斜地農耕システムの特徴をまとめる。</li> <li>班を解体して各自が調べたことを共有し、傾斜地農耕システムについてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GISを用いて縮尺を変えながら、地帯構造の特徴を整理する。</li> <li>班の担当する項目に従って重要な点をまとめさせる。</li> <li>自然や地形との関わり注目して考察するよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な視点から傾斜地農耕システムについて考察している。</li> <li>【思考・判断・表現】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板</li> <li>1人1台端末</li> <li>GIS</li> <li>Microsoft PowerPoint</li> <li>MetaMoJi Classroom</li> <li>グループ発表シート</li> <li>ワークシート</li> </ul>

図2 MetaMoJi Classroom資料①

この資料は、にし阿波の傾斜地農耕システムについて、その特徴や歴史、そして現代の取り組みについて詳しく解説しています。また、傾斜地農耕の利点や課題についても触れられています。



図4 生徒用ワークシート（部分）

(2) 人々の暮らしの工夫を見てみよう！

事例③： 県西部「にし阿波地域」（別名：三木杭・上名・系内など）

作業2：資料から特徴を読み取る！

5つの視点	作業2：資料から特徴を読み取る！
A	Q:これは何だろう？→A:【1】.....
B	Q:これは何だろう？→A:【2】.....
C	Q:この器具の特徴は？→A:【3】.....
D	Q:コエゴとは？→A:干した【4】.....を集めたもの。
E	Q:これは何の様子？→A:【5】.....

作業3：資料「5つの認定ポイント」のどれが当てはまるかを相談し、ア～オの記号で答えよう！

(3) 資料も参考に、「にし阿波」の魅力を手紙に紹介しよう！

①自己・興味・関心をもって学習に取り組むことができたか？ (A・B・C)

②阿波・にし阿波の山地の人々の暮らしについて、色々な視点から考えることができたか？ (A・B・C)

③学んだこと・感想・疑問点など（内容に慣れて一文字以上書くこと、提出時にチェックします。）

単元名は「世界の地形と生活文化」で、全8時間のうち第8時を単元のまとめとして設定している。1人1台端末を活用し、地域の生活文化を調べ、情報を共有・整理し、発表する。単元を通して、様々な地形が広がる世界で、自然と人間との相互依存関係について考察させており、これまでの学習と重ねながら、世界農業遺産に認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム」を題材としている。授業では、生徒同士が協力し、教え合いながら多面的・多角的に考察するジグソー法を用いて、MetaMoJi ClassRoomで作成されたエキスパート班用資料(図2)を基に、テーマごとにA～Eのエキスパート班で話し合う。その後、通常班に戻ってそれぞれの情報を共有し、通常班用資料(図3)を基に、生徒同士で協力しながらワークシート(図4)を完成させる。MetaMoJi ClassRoom資料には、多面的・多角的に考えるために動画(図2)や、世界農業遺産認定の手がかりになるもの(図3)などを掲載している。また、MetaMoJi ClassRoomで作成したグループ発表シートや、にし阿波の魅力を紹介する発表メモを評価資料とし、自己の取組を振り返る欄を設ける工夫をしている。

(3) 実践事例3 令和4年度ミドルリーダー研修 模擬授業研修

- ① 科目名：歴史総合
- ② 単元名：「第一次世界大戦後の欧米諸国とアジア」
- ③ 単元の基軸となる問い  
第一次世界大戦後、世界はどのように変化したか。
- ④ 本時の指導目標(第3時/全4時間中)  
「1920年代にあらわれた出来事で現代の社会に影響を与えたものは何か」という問いに対して、粘り強く自らの考えを出そうとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)
- ⑤ 本時の問い  
第一次世界大戦後のドイツとアメリカではどのような動きが見られただろうか。
- ⑥ 本時の指導計画(学習指導案 本時の展開の一部を抜粋、ICTの活用場面を太枠で表示)

学習活動	指導上の留意点	評価規準	ICT・教材
・アメリカの繁栄がもたらした光と影について学習し、Classiアンケートの問いに回答する。	・電子黒板に教科書や資料集に掲載されていない写真や動画も提示し、生徒の多面的・多角的な思考を促す。	・ワークシートの問いに対して、自らの考えを出そうとしている。【態度】	電子黒板 Microsoft PowerPoint Classi ワークシート

?

この二つの製品は1920年代のドイツとアメリカで生まれたものです。この写真を見て感じたことを書いてみよう。

ドイツ バイブ椅子



アメリカ 電気冷蔵庫



1920年代のアメリカ

- 永遠の繁栄
- 第一次世界大戦を機に⑧債務国から⑨債権国へ
- 工業の発展
  - …大量生産された自動車や家電製品の普及
  - ←ラジオなど広告の影響
- 大衆の娯楽
  - …映画、音楽、プロスポーツなどの発展

1920年代のアメリカ

- 格差と差別
- 1920年代…共和党政権続く
  - ⑩自由放任の経済政策
  - …大企業や富裕層を優遇
- 社会主義の排除
- アジア系・東欧・南欧系移民・黒人への排斥・差別・迫害
- 人種主義の風潮

図5 電子黒板提示用スライド(一部)

2 1920年代のアメリカ

◇永遠の繁栄  
 ・第一次世界大戦を機に(⑧.....)国から(⑨.....)国へ  
 ・工業の発展・・・大量生産された自動車や家電製品の普及 → ラジオなど広告の影響  
 ・大衆の娯楽・・・映画、音楽、プロスポーツなどの発展

◇格差と差別  
 ・1920年代は共和党政権 ← (⑩.....)の経済政策  
 ・・・・大企業や富裕層を優遇  
 ⇨アジア系・東欧・南欧系移民や黒人への差別・迫害

Q4 1920年代のアメリカにあらわれた出来事で、現代の社会に影響を与えたものは、またはつなげていると感じたものはどんなものがありますか？その理由も含めてClassiのアンケートに回答しよう！【態度】

Q5 もう一度1920年代のドイツとアメリカの写真を見て、Q1で感じたことと変化があれば書いてみよう！【思考・判断・表現】

(ドイツ)	(アメリカ)

【現代社会と関連づけながら、本日の授業で気づいたことや感じたことを書こう！】  
 【態度】

図6 生徒用ワークシート(部分)

設問1 1920年代のアメリカにあらわれた出来事で現代の社会に影響を与えたもの、つなげているものはどんなものがありますか？

回答数 84

選択肢 131人(34.4%)工業の発展  
 選択肢 231人(34.4%)大衆の娯楽  
 選択肢 320人(22.2%)格差と差別  
 選択肢 42人(2.2%)その他  
 未回答 6人(6.67%)

設問2 設問1の選択肢を選んだ理由を自由に書いてください。

A 評価:これまでの学習した内容にふれている。現代の社会の問題を具体的にふれている。二重線の箇所が根拠

- 電気中心、大量消費の社会 今でも引き継がれるエンタメ(映画、音楽等) kkk等、未だ続く黒人差別 →南北戦争の時に学習
- アメリカでのお笑いのブラックジョークでの人種差別がひどいと聞いたことがあるし、黒人を下にみる風潮があるところは事実だから。
- 1 工業化によって便利になっている。4 大量消費が続いている。しかし、地球温暖化などの影響ももたらしている 2 映画、野球、バスケットなどは娯楽として今尚娯楽している 3 黒人差別などはまだ抜けていない
- 現代でもアジア系や黒人の差別がアメリカで起きており、ときどき黒人の方がアメリカで亡くなったニュースを見るから
- アメリカは今でも、白人系警官が黒人系の人を射殺したりするなど黒人差別が残っているから。
- 今でもアジア人ヘイトや黒人差別による事件などが多いため。

図7 生徒の回答と学習評価(部分)

単元名は「第一次世界大戦後の欧米諸国とアジア」で、全4時間のうち第3時を本時とし、第一次世界大戦後の出来事で、現代の社会にも影響を与えていることについて、自らの考えを具体的に、粘り強く出そうとする態度を養うことを目標としている。単元では、第一次世界大戦後の変化について「光」と「影」に着目しながら学習を進めている。模擬授業では、Microsoft PowerPointで作成したスライドで初見の資料や写真などを数多く提示し(図5)、生徒の興味や関心を引き出しながら、第一次世界大戦後における社会の変化について考察を深められるよう工夫されている。生徒用ワークシート(図6)は、知識を整理する問いから次第に思考を深める問いになるよう構成されている。ワークシート後半の問いでは、当時のアメリカにおける社会の変化が現代社会に与えた影響について、生徒の考察をClassiのアンケート機能を用いて回収している。これらの回答を授業者が設定した評価規準に基づき、「主体的に学習に取り組む態度」として評価している。図7は生徒の回答と授業者による学習評価の一部抜粋である。

(4) 実践事例4 令和5年度ミドルリーダー研修 模擬授業研修

- ① 科目名：世界史探究
- ② 単元名：「イスラーム世界の形成と拡大」
- ③ 単元の基軸となる問い  
 イスラーム世界とはどのようなものだろうか。
- ④ 本時の指導目標(第3時/全8時間中)  
 イスラーム世界の形成と拡大の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、イスラーム世界を多面的・多角的に考察し、適切に表現する。(思考・判断・表現)
- ⑤ 本時の問い  
 ウマイヤ朝は「なに帝国」？

⑥ 本時の指導計画(学習指導案 本時の展開の一部を抜粋、ICTの活用場面を太枠で表示)

学習活動	指導上の留意点	評価規準	ICT・教材
<p>《展開1》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ単位で配付された資料A～Cをグループ内で分担し、読み取る。</li> <li>資料A：地理的視点</li> <li>資料B：被支配者視点</li> <li>資料C：シーア派視点</li> <li>担当箇所をグループで共有し、ウマイヤ朝を「なに帝国」と表現するか考察し、シートに入力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配付資料は、グループ学習ページに設定しておく。悩んでいる生徒やグループに対しては、適宜ヒントを提示する。</li> <li>グループで考えた表現と、その根拠も入力させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料A～Cを比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について考察し、表現している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p>	<p>電子黒板</p> <p>1人1台端末</p> <p>Microsoft PowerPoint</p> <p>MetaMoJi</p> <p>ClassRoom</p> <p>資料A～C</p> <p>ワークシート</p>
<p>《展開2》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウマイヤ朝の新たな表現を、根拠とともにグループごとに発表する。(全体共有)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表グループのページを電子黒板に表示する。</li> <li>全体の意見をまとめないようにする。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の問いに対する考察をワークシートに記入する。</li> <li>本時のまとめを聞き、自己評価と追加質問に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習活動を踏まえて、自分の考えを表現させる。</li> <li>歴史的事象への名付けは、「誰か」の価値判断に基づいて行われることを強調する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について考察し、表現している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p>	

世界史研究 資料プリント  
第3章5-3 「大征服」とウマイヤ朝

**資料A 地理的視点からの考察**  
グローバルワイルドp26-27



1. 言葉にチェックを入れよう。

2. 重要な言葉(イラ、ターファ、フスター)にチェックを入れよう。

3. ウマイヤ朝の勢力下にある歴史的に重要な都市にチェックを入れよう。

4. ウマイヤ朝の地理的な「中心」はどこかと思う。

5. 地理的視点から見て、ウマイヤ朝は「なに帝国」だろうか。この帝国に名前をつけてみよう。

世界史研究 資料プリント  
第3章5-3 「大征服」とウマイヤ朝

**資料B 被支配者視点からの考察**  
小杉泰「興亡の世界史 イスラム帝国のジハード」(講談社、2006)

ウマイヤ朝は「イスラム」としては、民族の垣を越えて広がった。その中心は、アラビア半島の南西部にあり、その中心地はメッカとメディナであった。メッカは、イスラム教の聖地であり、その中心地として、イスラム教の発展に大きく貢献した。メッカは、イスラム教の中心地として、イスラム教の発展に大きく貢献した。メッカは、イスラム教の中心地として、イスラム教の発展に大きく貢献した。

1. ウマイヤ朝の被支配者にはどのような人々が含まれていたか。資料から読み取ろう。

2. イスラムの勢力が拡大するにつれて、シリアやエジプトの人々にとってどのような影響があったか。資料から読み取ろう。

3. イスラムの勢力が拡大してからは、シリアやエジプトの人々にとってどのような影響があったか。資料から読み取ろう。

4. 被支配者の視点から見ると、ウマイヤ朝は「なに帝国」だろうか。この帝国に名前をつけてみよう。

世界史研究 資料プリント  
第3章5-3 「大征服」とウマイヤ朝

**資料C シーア派視点からの考察**  
富田健次「世界の教科書シリーズ 22 イランのシーア派イスラム学教科書 イラン高校国定宗教教科書」(明石書店、2002)

シーア派は、イスラム教の一派であり、その中心地はイランのメッカとメディナであった。シーア派は、イスラム教の中心地として、イスラム教の発展に大きく貢献した。シーア派は、イスラム教の中心地として、イスラム教の発展に大きく貢献した。

1. 資料中の、ムアウィヤのウマイヤ朝を批判している箇所をアンダーラインを引こう。

2. 資料中の「ハッサーニヤ」が「シーア派」の前身であることは、資料中のどの部分で読み取れるか。

3. シーア派の視点から見ると、ウマイヤ朝は「なに帝国」だろうか。この帝国に名前をつけてみよう。

図8 資料A「地理的視点」・資料B「被支配者視点」・資料C「シーア派視点」

単元名は「イスラーム世界の形成と拡大」で、全8時間のうち第3時を本時としている。地理的視点、被支配者視点、シーア派視点の3つの視点から、ウマイヤ朝について、自分たちなりの定義づけを通し、多面的・多角的に考察させることをねらいとしている。単元を通してイスラーム世界の「核」と「多様性」に着目しながら、それぞれの王朝の特徴について多面的・多角的に考察

図9 生徒用ワークシート（部分）

することを重視した指導を行っている。模擬授業では、ウマイヤ朝がアラブ帝国と表現されている点に着目させ、異なる3つの視点からウマイヤ朝を捉えた複数の初見資料（図8）を各グループで分担して読み解かせる。その後、MetaMoJi Classroomを活用して各グループの意見や根拠を発表した後、意見交換を行い、ワークシートに自分の考察をまとめさせた。生徒用ワークシートの最後には、授業に取り組む態度を回答する欄と、より深い考察を必要とする追加質問を回答する欄を常に設けており（図9）、Microsoft Formsを用いて回答を収集している。回答の蓄積により、学習の過程や成果を単元の中で評価することができる上、生徒への学習支援や、授業の改善にも速やかにつなげることが期待できる。

(5) 実践事例5 令和5年度フレッシュ研修Ⅰ 授業スキルアップ研修Ⅱ

- ① 科目名：歴史総合
- ② 単元名：「第一次世界大戦と大衆社会」
- ③ 単元の基軸となる問い  
第一次世界大戦は、その後の世界にどのような影響を与えたか。
- ④ 本時の指導目標（第1時/全4時間中）  
資料から読み取った情報を基に、総力戦としての第一次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し、説明文として表現する。（思考・判断・表現）
- ⑤ 本時の問い  
第一次世界大戦はそれまでの戦争とどのように異なるのか。
- ⑥ 本時の指導計画（学習指導案 本時の展開の一部を抜粋、ICTの活用場面を太枠で表示）

学習活動	指導上の留意点	評価規準	ICT・教材
<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料を読み、第一次世界大戦の特徴を、短文で1人1台端末からMicrosoft Formsに入力する。</li> <li>・資料から読み取った情報を複数用いて、第一次世界大戦の特徴を考察し、ワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料のどこに注目すべきか読み取りの視点を提示する。</li> <li>・Microsoft Formsを用いて、出された意見を全体で共有する。</li> <li>・複数の情報を組み合わせるよう指示し、言葉同士の関係性を考察さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦の特徴について、資料から読み取った2つ以上の情報を用いて考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板</li> <li>1人1台端末</li> <li>Microsoft Forms</li> <li>読み取り資料</li> <li>ワークシート</li> </ul>

シートに説明文を作成する。(後日Formsで送信する)

せる。

察したことを文章にまとめている。

【思考・判断・表現】

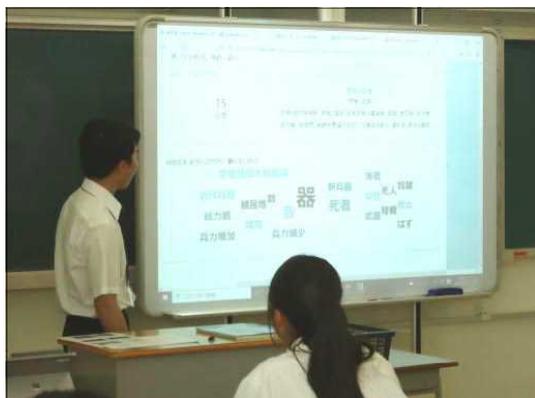


図11 ICT活用場面(回答の考察)

単元名は「第一次世界大戦と大衆社会」で、全4時間のうち第1時を本時とし、単元の最初の授業である。授業では、これまでに学んだ戦争について簡単に振り返り、生徒用読み取り資料(図10)と比較して、これまでの戦争と第一次世界大戦が異なる点を考えさせる。各自の考えをMicrosoft Formsを用いて語句や短文で回答させたあと、電子黒板に投影したテキストマイニング(図11)で各自の回答を共有する。生徒は表示された語句のうち、重要と思う語句を複数用いて、第一次世界大戦の特徴を説明する文章を作成し、Microsoft Formsを用いて改めて回答する。図12は、生徒から回収した語句・短文と説明文を、授業者が設定した評価規準に基づき評価したものである。授業者は日常的に生徒の発言や文章による表現を重視した指導を行っており、今回の研究授業では、あらかじめ与えられた語句ではなく、その場で表示した多くの語句の中から、各自が選択し、自分の考えを文章で表現することを目標の柱に据えている。また、授業展開も、基本的な知識の振り返り→資料の読み取り→語句や短文による表現→複数の語句を用いた文章による表現という、段階的に生徒の思考力を高めようとする工夫がされている。

**【第一次世界大戦 資料】**

読み取り難易度 【★】

①19世紀のおもな戦争と第一次世界大戦による戦死者数

ポイント それまでの戦争はどんな武器で戦っていたのか思い出して比べよう

ポイント 第一次世界大戦の戦死者(兵士として死んだ人)のグラフはどうなっているか注目しよう

ナポレオン戦争 (1805-15)	210 (万人)
クリミア戦争 (1853-56)	78.5
南北戦争 (1861-65)	62.2
第一次世界大戦 (1914-18)	1,000

②新兵器の登場

ポイント それまでの戦争はどんな武器で戦っていたのか思い出して比べよう

▼戦車

▼毒ガス

▲飛行機

▲潜水艦

読み取り難易度 【★★】

③イギリス軍として動員されたインド兵

ポイント なぜインド人が遠く離れたヨーロッパの戦争に参加しているのか予想しよう

読み取り難易度 【★★★】

④武器を作る工場で働く女性たち(左)と女性警官(右)

ポイント もともと戦争に関する職業や警官はほとんどが男性の仕事だったのに、なぜ女性が働いているのか考えよう

図10 生徒用読み取り資料

第一次世界大戦 生徒の解答(一部抜粋)と評価

Q2 第一次世界大戦とはどのような戦争だったのか

STEP 2 第一次世界大戦の特徴を短い言葉で書き出そう  
(植民地からの動員や女性の労働について読み取ることができている場合はA)

機械、毒、色々な国の人、女性	A
新兵器、植民地、死人、重産	A
機械、砲弾、総力戦	B
新しい武器 規模が大きい戦争	B
死者が多い、近代兵器、植民地からの兵士、	A
新兵器、多くの死者	A
死んだ人多い	B
毒ガス	
戦車	
死者多数、近代兵器の使用	B
死人大量、新兵器(戦車、毒ガス、飛行機、潜水艦)、人がいないから女性参加	A
新兵器	B
人が多くなくなった、新しい兵器が多い、女性が働いている、	A
総力戦、長期間、兵器大量(毒ガス)など、	A
労働者の増加、植民地、膨大な戦死者、	A
領土の取り合い、	
死者の数が圧倒的、陸戦、海戦、空気感染大量虐殺、奴隷、植民地、兵力減少、男女問わずの兵力増加	A
死者、武器	B
戦死者増、新兵器、大規模、植民地、国民が戦争に参加、	A

STEP 3 第一次世界大戦の特徴を説明する文章をつくらう

女性や植民地の人々に食糧や兵器を作らせたり、兵として動員させたりしていた大規模で新兵器をたくさん使った戦争。	B
新兵器を使い、他国や植民地を巻き込む総力戦になり、世界中でたくさんの死者が出た。	A
複数の国の連合軍同士が、近代化した新兵器を用いて戦争をしたことで、今までの戦争よりも大規模になり、多くの戦死者が出た。	A

一番上は、多くのキーワードを用いているが、言葉同士の関連性が明示されていないためB評価。  
下2つは、死者数が増加した原因として、植民地の動員や新兵器の使用をあげ、関連付けられているためA評価。

図12 生徒の回答と学習評価(部分)

### 3 実践事例の考察

いずれの実践事例においても、「問い」を中心に据えた単元や授業が展開され、ICTの活用や協働的な学びを通じ、これまでに学んだ知識を生かして、考察したり発言したりする学習場面が多く設定されている。各授業者が、基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得をめざした指導や、「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成を目標にした指導に積極的に取り組んでいることがうかがえる。

ICTの活用については、スライドや写真、資料やグラフの投影など、電子黒板を中心に展開する学習場面が多くを占めており、地理歴史科の指導において、電子黒板はICT機器の中でも重要な役割を果たしていると考えられる。一方、1人1台端末においては、活用する場面や取り扱う題材などによって、多様な使い方がされている。実践事例1・5では、生徒の考えをその場で収集する場面で1人1台端末が用いられており、収集された回答を用いて知識の整理や考察を深めることに重点が置かれている。実践事例2・4では、考察を深める詳しい資料の配付に始まり、グループ内の意見集約、学習の成果を発表する場面まで、授業の大半を1人1台端末を用いて行うことで、より密度の濃い学習効果を実現している。また、今回の実践事例では紹介できなかったが、校外での調べ学習や、生徒個々によるレポートの作成など、教室外での学習活動においても、1人1台端末は重要な役割を果たしている。

学習評価を見据えた教材については、実践事例3・4・5では、ワークシートに添付したQRコードから、生徒の回答や授業後の課題を効率的に回収し、学習評価に生かしている。また、実践事例2・4では、グループで作成した発表シートをアプリケーション内のクラスボックスに提出させ、評価資料の一つとして利用している。このようにICTと教材を組み合わせ、生徒の回答や課題をデータ上で蓄積することで、より効率的に学習評価の充実を図ることができる。同時に、指導の過程において、生徒への学習支援や授業の改善に生かすことも期待できる。

### 4 学校現場における授業と学習評価に関するアンケート

学習指導要領が改訂された後の、学校現場における普段の授業や学習評価の現状を把握するため、令和5年8月2日に行われたGIGAスクール教科等研究集会で、高等学校地理歴史科の教員を対象に、普段の授業における(1)ICTを利用した授業、(2)「主体的な学び」を取り入れた授業、(3)学習評価の3点についてアンケート調査を実施した。アンケート調査は任意、無記名でお願いした。アンケートの回収率は77.8% (集会参加者18名中14名回答)であった。

#### (1) ICTを利用した授業について

普段の授業でICT機器の中でも電子黒板の利用頻度について質問したところ、「ほぼ毎回利用している」が86%、「3～4回に1度程度利用している」が14%であり(図13)、回答した多くの教員が、電子黒板を利用した授業を日

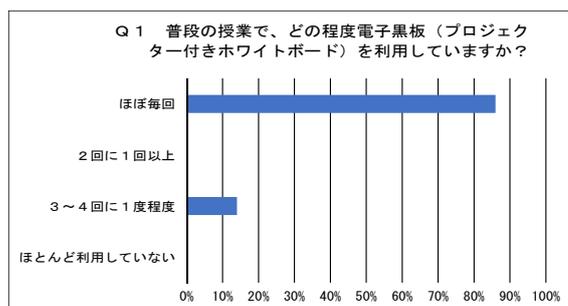


図13 電子黒板の利用頻度 (%)

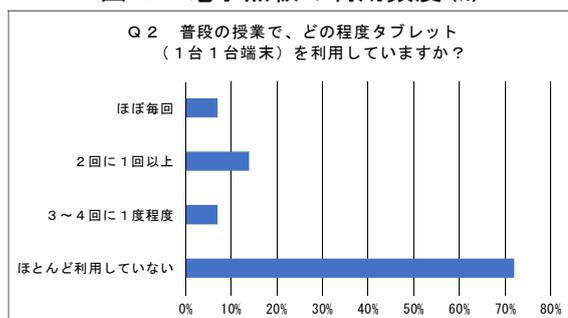


図14 1人1台端末の利用頻度 (%)

常的に行っていることが分かる。一方、普段の授業で1人1台端末の利用頻度について質問したところ、「ほとんど利用していない」が71%、「ほぼ毎日利用している」、「2回に1回以上利用している」が21%であった(図14)。

こうした電子黒板などのICT機器を利用した授業は、教科指導において効果的であるかについて質問をしたところ、「効果的だと思う」が64%、「やや効果的だと思う」が21%であり(図15)、大多数の教員が効果的と感じていることがわかる。ICTを利用した授業の効果について自由記述で回答を求めたところ、①資料や情報の提示のしやすさ、②知識や理解の促進、③調べ学習や協働学習の共有のしやすさ、④課題などの収集とデータ化、⑤興味・関心の増加の5つに分類できる(表1)。

また、ICTを利用した授業の問題点について自由記述で回答を求めたところ、①ネット環境や端末等の問題、②教員・生徒双方のスキル不足、③授業内容・授業や教材づくりの課題の3つに分類できる(表2)。①の課題については、ICT環境や支援員の整備が順次進められている。また、②や③の課題については、今後もICTを活用した授業の指導案や教材を蓄積し、共有していくことで、教員・生徒双方のスキルの向上や授業内容の改善に繋がると考えられる。

(2) 「主体的な学び」を取り入れた授業について

普段の授業で「主体的な学び」を取り入れた授業を行う頻度について質問したところ、「ほぼ毎回行っている」「2回に1回以上行っている」の回答が58%、「3～4回に1回程度行っている」が42%(図16)と、回答した全ての教員が普段の授業で主体的な学びができるよう取り組んでいることが分かった。

「主体的な学び」を取り入れた授業が教科指導において効果があるかについて質問したところ、「効果的であると思う」「やや効果的であると思う」が93%であり(図17)、ほとんどの教員が効果を感じている。具体的にどのような効果

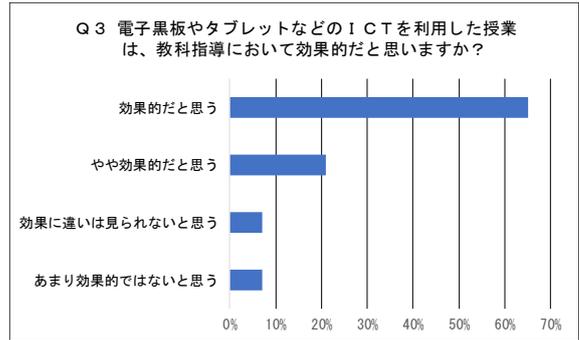


図15 ICTを利用した授業の効果 (%)

表1 ICTを利用した授業の具体的な効果

Q4. ICTを利用した授業を行うことで効果があったこと
<p>【①資料や情報の提示しやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に関連した映像や資料を即座に提示できる</li> <li>動画や音楽を教材として活用できた</li> <li>資料共有、特にこれまで共有が難しかった地形図は効果的</li> </ul> <p>【②知識や理解の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や資料集の資料を電子黒板に提示して、線を引いたり・指し示したりしながら説明できる</li> <li>地図や資料の提示や説明がしやすい。視覚的に記憶させることができ、電子ペンを使った説明も効果的である</li> </ul> <p>【③調べ学習や協働学習の共有しやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料をグループで読み取ることができる</li> <li>レポートの作成において、生徒同士の共有や編集がやり易く、相互補完ができる</li> <li>グループ討議の発表が見やすい</li> <li>調べ学習がかなり有効。進度も早くなる</li> </ul> <p>【④課題などの収集とデータ化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題の配布・回収がしやすい</li> <li>小テストの採点がすぐできるので、生徒の到達度を確かめられる</li> <li>レポートなどの保存もできるので、時間をおいても見られる</li> </ul> <p>【⑤興味・関心の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味・関心を引きやすい</li> <li>Classiの解説動画を見ることがあるが、多くの生徒が非常に集中して見ている</li> </ul>

表2 ICTを利用した授業の具体的な問題点

Q5. ICTを利用した授業における問題点
<p>【①ネット環境、端末等の問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットのスペックが悪すぎる</li> <li>一斉に起動させると遅くなったりページの更新が重くなったりなど通信状態が悪くなる</li> <li>ネットがつながりにくいため、なかなか使えない(紙と併用)</li> <li>ネット環境・端末不具合等により問題なく利用できなかったことがない</li> <li>タブレットやWi-Fiの不調で準備してたことが実施できない</li> <li>通信環境が安定しないため、実際に使うのが不安</li> <li>黒板やホワイトボードに比べると電子黒板は見えにくいときがある</li> <li>1人1台端末を活用するのは、十分なインターネット環境がないと難しい</li> </ul> <p>【②教員・生徒双方のスキル不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用者のスキル不足(教員も生徒も)</li> <li>生徒の情報格差でスピード感をつかみづらい</li> </ul> <p>【③授業内容・授業づくりの問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業のうたてがたいへん。教科担任で差が出る</li> <li>担当教員による授業内容が異なること</li> </ul>

があったかについての自由記述で回答を求めたところ、「よく考えるようになる」「積極的に自分の意見を伝えるようになった」などの①学習意欲の向上と、「ペアワークを行うことで多面的に事象をとらえられるようになった」「歴史が現在の社会とつながっている実感ができる」などの②多面的・多角的な思考力の向上の2つの内容が数多く見られた(表3)。普段の授業の中に「主体的な学び」を取り入れることで、生徒の学習態度の変容や学習効果の向上を実感している教員が多くいることがうかがえた。

一方で「主体的な学び」の問題点については、「評価ができない」「評価規準が難しい」などの①評価の難しさと、「進度が遅くなる」「時間の制約」などの②学習進度の問題の2つの問題点が挙げられた(表4)。

表3 「主体的な学び」を取り入れた授業の具体的な効果

Q8. 「主体的な学び」を取り入れた授業を行うことで効果があったこと
<p>【①学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく考えるようになる、思考がアクティブになる</li> <li>・生徒の意欲的な姿勢が見られた</li> <li>・積極的に自分の意見を伝えるようになった</li> <li>・生徒の積極性の向上</li> <li>・暗記科目であるという感覚を取り去ることができる</li> </ul> <p>【②多面的・多角的な思考力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的な方向から考える事ができている</li> <li>・生徒が我事として考えられていたと思う</li> <li>・功罪、二つの局面でペアワークを行うことで多面的に事象をとらえられるようになった</li> <li>・生徒同士で会話をする機会が増え、興味関心が高まり教え合う雰囲気が出来つつある</li> <li>・歴史が過去のものでなく、現在の社会とつながっていることが実感できる</li> </ul>

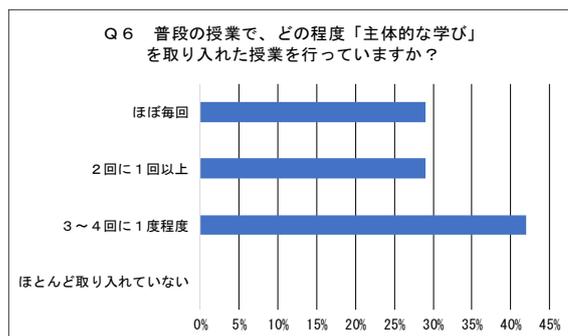


図16 「主体的な学び」を取り入れた授業の頻度 (%)

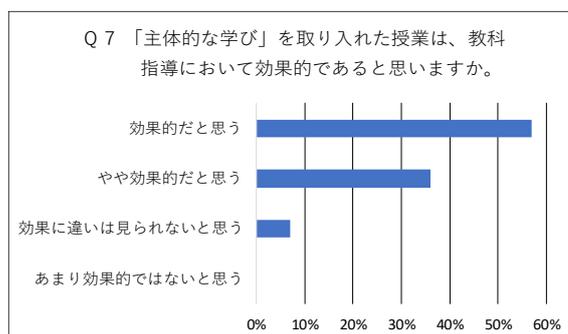


図17 「主体的な学び」を取り入れた授業の効果 (%)

表4 「主体的な学び」を取り入れた授業の具体的な問題点

Q9. 「主体的な学び」を取り入れた授業における問題点
<p>【①評価の難しさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価できない</li> <li>・評価規準が難しい</li> <li>・評価の客観性</li> </ul> <p>【②学習進度の問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進度が遅くなる</li> <li>・進度との両立がやや困難である</li> <li>・時間的な制約</li> <li>・進度が遅くなるがメリットの大きさほどではない</li> <li>・時間的制約がある</li> <li>・知識的な部分の時間が削られてしまう点</li> </ul>

### (3) 学習評価について

学習評価についての質問では、特に課題が多いと思うことを1人につき3項目選択してもらった。その結果、①「主体的に学習に取り組む態度」の評価、②評価規準・評価方法の作成や見直し、③授業で使用する課題や教材等の作成の3項目の割合が特に多かった(図18)。

次に、学習評価を行うことで教科指導において効果があったことについて自由記述で回答を求めたところ、「評価規準を示すことで、モチベーションの向上が見られた」などの①意欲の向上と、「生徒を多面的にとらえることができる」などの②多面的な学習評価、「双方で、学習の振り返りにつながる」などの③学習の改善という3つの側面があった(表5)。

さらに、評価への課題を改善するために取り組んでいることや工夫していることについて自由記述で回答を求めたところ、「担当者間でのコミュニケーション」「既に観点別評価を実施している中学校の取組を参考にしている」などの①意見や情報の交換・共有と、「定期テストにおいて多様な問題形式をつくる」などの②教材や試験問題等の工夫の2つの取組が見られた(表6)。

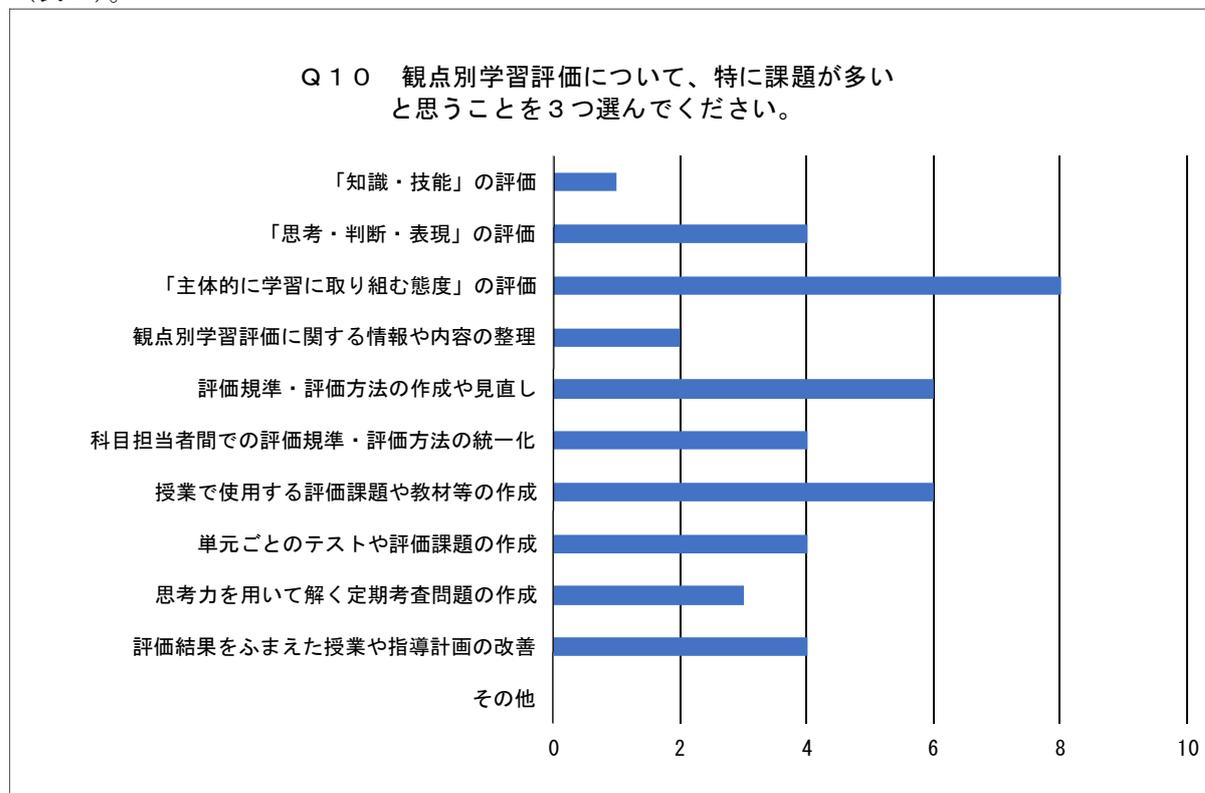


図18 学習評価についての課題(複数回答・人)

表5 学習評価についての具体的な効果

Q11. 学習評価を行うことで教科指導において効果があったこと
<b>【①意欲の向上】</b> ・評価規準を示すことでモチベーションの向上が見られた ・生徒に評価の観点が見えやすくなり、授業の目的が明確となった
<b>【②多面的な学習評価】</b> ・生徒を多方面からとらえることができる ・生徒の多面的な評価 ・思考力や判断力を問う問題を設定するようになる
<b>【③学習の改善】</b> ・教員・生徒の双方で、学習の振り返りにつながる ・授業の改善 ・授業計画を細かく行うようになった

表6 課題を改善するための取組と工夫

Q12. 課題を改善するために取り組んでいることや工夫していること
<b>【①意見や情報の交換・共有】</b> ・担当者間でのコミュニケーション ・同一教科の教員間での情報共有を密にする ・既に観点別評価を実施している中学校の取組を参考にしている
<b>【②教材や試験問題等の工夫】</b> ・パフォーマンス課題を多くの種類させるなどの創意工夫 ・記述式の回答を増やす ・定期テストにおいて多様な問題形式をつくる ・提出物をこまめに回収し、理解度を見取る ・記録をこまめに残す ・常に生徒、保護者への説明責任を考え、作問、評価をしている

#### IV 研究の成果と今後の課題

アンケート結果によると、普段の授業においても電子黒板が多用され、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業が積極的に行われていることが認められた。また、ICTや「主体的な学び」を取り入れた効果として、生徒の学習意欲や、多面的・多角的な思考力の向上などを実感している教員の多いことがうかがえた。学習評価に関しても、生徒の意欲の向上や学習の改善など、教科指

導上の効果を実感し、学習評価の充実のために組織的に取り組まれていることが認められた。一方で、今後取り組むべき課題も明らかになってきた。ICTの活用に関しては、1人1台端末の利用頻度が少なく、学習評価に関しては、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、評価規準・評価方法の作成や見直し、教材等の作成の3項目について、課題が多いと感じる教員が特に多かった。

地理歴史科は社会的事象や社会に見られるさまざまな課題を数多く取り扱う教科である。教室内はもちろん、教室外でも活用でき、個々の学びを集約、共有しやすい1人1台端末の活用は、地理歴史科の学習活動において今後ますます重要になると思われる。また、学習評価の課題を改善するには、評価方法や評価規準、そして学習評価を見据えた教材の共有や蓄積が不可欠である。今回紹介した1人1台端末の活用事例や、学習評価を見据えた教材づくり、ICTを活用した評価資料の効率的な回収などの事例を参考にしながら、授業改善や評価方法の工夫などを行っていくことが有効である。校内における取組だけでなく、研修の機会やICTなどを活用して、他校の教員と実践事例の共有を積極的に行い、共有された事例を各校で実践することによって、授業改善や学習評価の充実を図ることが重要な課題といえる。

## V おわりに

学習指導要領で示された主体的・対話的で深い学びの実現や学習評価の充実に向けた取組が、各校で積極的に行われている。しかし、校内の取組だけでは限界があり、教員1人当たりの量的・時間的・精神的負担も大きくなる。他校とも連携し実践事例などの共有を進めることが、課題の改善や負担の軽減にもつながると考えられる。今後も研修受講者や県内外の学校の実践事例を積極的に蓄積し、研修や学校訪問の機会、さらにはICTを活用した情報共有などを通して、学校現場の授業改善や学習評価の充実の一助となるような取組を進めていきたい。

---

## 参考文献

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』、2019年
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』、2019年
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校地理歴史）』、2021年
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『学習評価の在り方ハンドブック』、2019年